細江カトリック教会だより

夏（6、7月）号

〒750-0016　下関市細江町 1-9-15　083-222-2294　083-222-0970
ホームページ　http://hosoechurch.sakura

ケをいかに生きるか

５月末の聖霊降臨の主日で復活節が終わり、年間の季節に入っている。典礼の暦からすれば、晩秋の待降節まで、大きな祝いもなく、まさに平常の日々を送ることになる。日本の暦からすれば、ハレの時が終わり、ケのときを過ごす時期である。ハレの時には、人々の気分も高揚し、それなりに生きがいや喜びを強く感じるが、一旦ハレの季節が終わりケになると、目標を失ったような、張り合いを感じられなくなることもまれでない。スポーツが盛んな現代、わたしたちの日常には、様々な試合が連日のように報道され、サッカーが終われば、ラグビー、それが終わればバレー、野球、その間に相撲。これだけでも、１年中、ハレが続いているような錯覚を持たされる。ハレは大事だが、あくまで非日常であり、いつまでも続くものではない。

わたしたちを取り囲み、その中で生きている自然の営みには、大きなリズムがあり、季節の移り変わりに自らの営みを合わせることも少なくない。農耕に携わる人はもちろん、自然を身近に感じない都会に住む人にとっても、季節は少なからず、生き方に影響を与える。寒い冬が去って春が来れば、気持ちも明るくなるし、喜びを体で感じることができる。梅雨、そして、蒸し暑い夏となれば、何とか季節が早く移ることを願わずにはいられない。厳しい冬を迎える秋には、実りの喜びとともに、去りゆくものへの思いも深まるものである。

イエスの生涯は、大半が日常だった。公生活に入っても、ガリラヤの生活は、日常が多くを占めていた。受難と死という、非日常とも言うべきエルサレムでの日々は、生涯のごくわずかな期間だった。そんな日常の中でも、イエスは、その時をいかに過ごすか、範を示してくださった。人々と交わり、教え諭し、癒しの業に明け暮れる日常の中に、必ず、父との密接な時をもつことを怠らなかった。働きと休み、労働と憩い、仕事と祈り、人間の生活に欠かすことのできない要素がそこには、しっかり位置づけられていた。仕事に専念するものは、いつも「時」に追われている。期限があり、締め切りがある。仕事がなくなり、集中するものがなくなった時、人は「時」から解放されたようで、実はもっぱら、いつ訪れるともしれない「時」を待つだけの存在になる。

ケをいかに生きるか、それは、人間だれにとっても大きな課題であり、それを身に着けたものが、より豊かな命を生きることになるのではないか。見せかけのハレに踊らされるのではなく、真のハレを知る恵みを受けた者として、「待つ」ことの多い日常を大切に生きる恵みを祈ろう。

作道 宗三 神父

社会教説　6/2（日）

講師/中井淳 神父

テーマ「**浅い川でも深く渡ろう**」

最初神父様のギターの伴奏で、テゼの祈りを歌いました。

テーマは，写真家、探検家、詩人の**星野道夫**がアラスカの野生生物、自然、人々を撮影し、厳しい自然の中で動物が生きる姿、人間の生活、命の尊さを綴ったエッセイに、中井神父様が深く共感されたのだと思います。

「…深い森の中にいると川の流れをじっと見つめているような、不思議な心の安定感が得られるのはなぜだろう。一粒の雨が、川の流れとなり、やがて大海に流れてゆくように、私たちもまた、無窮の時の流れの中では、ひと粒の雨のような一生を生きている雨に過ぎない。川の流れに綿々とつながっていくその永遠性を人間に取り戻させ、私たちの小さな自我を何かに委ねさせてくれるのだ。…」

白浜司教様が教区報で、参加者の霊的な体験の場として呼びかけられた教区シノドスの「宣教のひろば」に、神父様は参加されました。そこで昨年の世界シノドスに参加された日本人三人の一人、ベリス・メルセス修道女会の Sr. 弘田しずえのお話「全ての人の話を聴く」の後、「霊による会話」の実体験ができたことを話され、Sr. 山本の著書「脱男性性」にも触れ、「社会の発展・成長は自然の命に根差す。直線ではなく，螺旋を描く」を紹介されました。

昨年８月７日フランスでの CLC におけるテキスト「エコロジーに向かう回心のための霊的な旅路」（2020 年 5 月 20 日出版）の日本語暫定抄訳小冊子を神父様は今年 5 月に出版されています。エコロジーの先駆けである、ドイツのベネディクト会女子修道院長「**ヒルデガルドの霊性**」について、女性性を肯定し従来の男性中心的な「神聖への参与」の歪みを訂正する道を開き、現在のアートにおける女性性の解放等、人間が本来の人間性へと戻っていく流れの中で注目されていると話されました。

アジア学院での「神の存在に気付く」体験。それはキリスト教精神による、農業による参加者の霊的な対話の体験の場で、コミュニティーの活性化、朽ち果てたものを土に変えることが可能とわかる。サーバントリーダーシップの分かち合いで自分が変わった平尾千恵子さんは、私たちのアイデンティティーの根源は「**土性**」であり「**庭が重要**」と。コロナ過での「土とのかかわり（センターの畑の土替え）」をされ、その作業をとおして，自分の中の子ども性（Inner Child）から自身**が**変ったと話されました。

教区ラウダート・シ デスクの山口の渡さんとの協働で、**霊性プログラム**「木の下にて」の 1・2 章を担当し、それは、自然に入浴する。被造物とともに神を賛美する。畑で祈る。波の音、鳥の鳴き声を聞く、朝焼けの美しさを見ること…。

最後に、神父様作詞・作曲「この川を深く渡ろう」を歌いました。

その後の、ミサ説教の要点は「**私たちの体は、イエスの体をいただいて、もう一人のイエスになる。**」でした。 これは、アイダル神父から、黙想会で指導を受けたことだそうです。「運命を共にしていく」ことは、あらゆる出来事の意味の理解を深めること。「賛美する」のは、神のなさること。「いただく」のは日常のささやかなパン、ささやかな実りではあるが、その一つ、一つが、神が生かしてくださる奇跡なのだと。

「土性」「庭の重要」が身に沁みました。老化が加速する自分にもできることに取り組みます。

菊野 清一

ミャンマーの平和と難民の子どもたち

6 月 22 日に、ロクスひよりやまにて集いがありました。**「ミャンマーの平和と難民の子どもたちを支援するために」**というテーマで、お昼に集まっていただき、私が作ったカレーなどを食べていただいた後に、私の友達であるミャンマーの牧師さんから、ミャンマーが現在どのような状況なのかをききました。私は、今イエズス会のアジア太平洋地域の難民移住者支援のネットワークに関わっていて、そこでの一つの大事な使命がミャンマーのためにアクションを起こすことです。3 年前に軍事クーデターが起きてから 200 万人の人が国内外で難民生活をおくっており、状況は悪くなっています。私は、2 月にミャンマーからの難民たちに会いに、タイの国境のメーソットという街に行きました。そこで会った難民の子どもたちの顔が日本に戻ってきてからも思い出されました。そして、私がロクスひよりやまでやっている子ども食堂とそれを支援している人たちと、ミャンマーからの難民の子どもたちをつなげられないかなと思いました。難民の子どもたちが食事ができるように支援していく。メーソットに一緒に行ってくれたその友人の牧師さんは、「淳さんがそのような思いを持っているならば、いつだって協力するよ」と言ってくれました。そうやって、6 月 22 日のイベントを迎えました。

ある時から、福岡にミャンマーの支援をするグループがあることがわかり、そこに通うようになって、ミャンマーを巡っていろいろな人々との繋がりが広がり、深まっています。その仲間たちも駆けつけてくれました。これからどのような展開をしていくのかわかりませんが、1 日も早く、ミャンマーの人たちが安心して暮らせる日が来るようにその希望を持ちながら、8 月にまたメーソットに行ってきたいと思います。

ロクスひよりやま キャプテン
中井 淳神父

宣教ひろば/教会にあたたかさの息吹を

宣教ひろばは「ともに歩むあたたかさのある教会」を目指しています。

私たち日常生活の中でも思いかけない難しい事が生じることがあります。教会の中においても同様です。ふつうに信仰を持っている人たちの集まりと思うのですが、何故なんでしょうね？

神さまの愛を実践すること、温かい心で人を思いやる気持ちが大切だと思います。

難しいことは分かりませんが**教会＝温かい**を目標に、素直な心で、みんな一つの方向に進んでいけたらいいですね。

先日、ロクスひよりやまで開催されたお話しを聞きに行った際、バラに囲まれたマリア像の所に立ち寄りました。

さまざまな人間関係の中で、複雑に絡み合った糸は中々ほぐれず、癒されないまま日々の生活が過ぎて行く。

糸の結び目を解いてださるマリアさまは、私たちのために祈りで、癒してくださる。

ここを訪れた方に、またマリアさまに取り次ぎを願う方のために、「結び目を解くマリア」像はひっそりと佇む。

ロクスひよりやまの駐車場の片隅にて

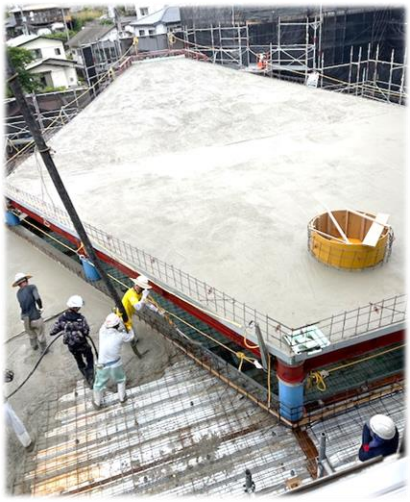
K.K

教会建替え状況の報告

６月末までの進捗状況は４０％位まで順調に推移しています。来年２月中旬には建物完成予想です。その後、オルガンの設置等で３～４週間かかります。そして同時に引っ越し荷物や備品の搬入作業がありますが、３月中には新しい聖堂での御ミサが執り行えそうです。

＊聖堂の内側部分

＊教会屋根部分の基礎



＊公園から見た教会聖堂部分

＊教会は左側、幼稚園は右側

教会ベランダでは・・・６月～７月

＊パッションフルーツ

＊カサブランカ

編集後記

＊熱中症、コロナ感染にご注意を。

＊トアン畑の野菜販売は長府･彦島教会の協力で建て替え積立金に貢献していただいてます。感謝！

＊6/23　東ティモールで司牧をしていらっしゃる村山兵衛神父さまが来訪され、現地の子どもたちの教育に熱心に取り組んでおられる様子を伺いました。

同じ年代の息子を持つ母としての立場で心配する気持ちで、話しを聞いていました。

「お元気でご活躍をお祈りしています！」